美術 '84回顧〔県内〕<10>

稲嶺成祚

圧倒的に多い個展
回顧ものから新作まで

今年中に筆者にきた絵画展の案内状が九十通をこした。月に平均して約八回の絵画展が開かれたことになる。昨年の資料が十分ではないので比較はできないが、絵画展の大変な盛況ぶりはうかがえる。

息の長い新作展

絵画展は、絵画塾の発表会、美術団体（沖縄支部展）の展覧会、個展、グループ展、全県的な展覧会と、規模、質ともにさまざまではあるが、そのうち圧倒的に多いのが個展で、半数を超す五十余通の案内状をいただいた。まとまった作品で自分の芸術を見てもらおうとの傾向は大いによいことだと思う。まずは目についた個展から述べたい。

個展には、過去の作品から現在のものまでを並べる回顧的な個展と、新作のみを展示する新作展とがある。回顧的なのは現在の作品が主になるのではないので、今年の仕事を評価するという点ではもの足りないが、過去にさかのぼることで現在の作品についての理解を深めるという意味では意義があろう。

そうした回顧展的個展の中で筆頭にくるのが金城安太郎個展。四十三年ぶりの個展というのだから、すべては新しく展覧されたわけで、いわば息の長い新作展といってよい。絵の内容や形式の問題をこえて、水墨画様式による描写の確かさに感銘を受けた。

石垣博孝の個展も県民ギャラリーの壁面せましと絵を並べて圧巻だった。そのほかには人物の大作をずらりと壁面にかけた久場とよ展、朽ちた自動車などで超現実主義的な中郁紘一展、特異な画風をもつ宇根悦子展、二重場面の描写で新しい展開をみせた川平恵造展、日本的フォービズムを重厚な画面で長年の沈黙を破り、伊江隆人、平良晃が墨状の色でダイナミックな表現を見せ、国吉清尚が有機的な形態の器で表現を試み、岸本一夫が紅型の形をスクリーン印刷で生かし、花城郁子が変形の画面を試み、青山映二が段に挑戦といったところが、今年になっての目立った変化といえよう。従来の画風ながら質の高い作品をみせたのには、永原達郎、屋良朝春、真喜志勉、新城征孝、比嘉英男、山城貞信、赤瀬正則、屋嘉祖盛美、大浜英治、金城規克、与儀達治らの個展があった。

和宇慶朝健さん

金城安太郎さん

10周年の女流展

グループ展で目をひいた作家たちの名もあげておきたい。三人展で水墨の実験を試みた奥原崇典、絵画三人展の新垣正一、比嘉良博、絵画六人展でユニークな装飾性をみせた知名久夫、絵画二人展での熟っぽい風景の金城明一、「彩の会」の与那覇敏、絵画七人展ではその精巧な仕事で目をひいた和宇慶朝健、与久田健一。大所帯を有する「新生美術」では常連のベテランを別として、玉城栄一の手堅い婦人像、長老格の慶田喜一の密度の高い風景画が光った。

女流美術展では、宮良葵子、中島イソ子、吉永ます子が今までとは少しニュアンスの違った仕事で成功した。今回は十周年を記念して画集も発行。

美術団体の沖縄支部展も例年通りの華やかさで開かれ、ベテランの会員たちがコンスタントな良い仕事を見せてくれた。

次に全県的な展覧会について述べたい。沖展（第三十六回）の受賞者は次の通り。準会員賞・与久田健一、沖展賞・奥原崇典、奨励賞・山内盛博、新城剛、浦崎彦志。彫刻の部・準会員賞・津波古稔、奨励賞・當眞勲、上江洲由郎。その他会員、準会員以外の絵で注目したのが高江洲盛一や比嘉良博の重厚な風景画、十七世紀スペインのリアリズムを思わせる饒辺名知健の人物像などであり、彫刻では賛助の受賞者は次の通り。県知事賞・和宇慶朝健、県教育長賞出品の金城実のダイナミックなタッチが目をひいた。同じく沖縄タイムス芸術選賞の美術部門では、安次富長昭、城間喜宏が大賞、大浜英治、浦崎彦志が奨励賞を受けた。

美術展覧会（第13回県展）

砂川は今までの実験作からふっ切れたような密度の高い作品を作った。

第三回沖縄平和美術展はデザインも含めて開かれたが、宮城和邦や本村恵清らの仕事にユニークな手堅さを感じた。

真摯な小谷の画面

沖縄二世や海外在住の作家たちの発表もいくつかあった。新城正子展、高良清吉展、桑江良健展、小谷節也展、比嘉良治展（写真）などである。その中で小谷の仕事には、真摯（し）な画面づくり、絵画への深い愛着がうかがえて出色だった。

県外作家たちの発表にも見るべきものがあった。市川重治展、「九州アート・ナウ」、「方の会」などがあったが、「九州アート・ナウ」は多様な前衛的立体作家たちによる展示で、沖縄からは能勢孝二郎、能勢裕子、上江洲由郎、豊平ヨシオが参加した。「方の会」は、沖縄からは永津禎三、金城規克が出品、大作一人六、七点ずつの展示で、出品者四人それぞれに趣向は異なるが迫力ある会場となった。

外国作家の発表としては、旺元展での韓国「新紀会」と中華民国「世紀美術協会」の作品展、微細なリアリズムをみせたシャイステ展、年末に大規模に開かれた日本国際美術家協会沖縄展での海外作家の部（ホアン・ミロドローイング・デッサン・コンクール秀作展、キューバ、オーストラリア、スペイン等の作家作品）がある。

今年は沖縄文化協会主催の第二回詩画展も開かれた。二十三組の詩人と画家の作品が展示され、「沖縄・現代詩画集」も発行された。十二月もおしつまって、タイムス社主催による「宮城健盛・安次嶺金正・玉那覇正吉」顕彰三人展が開かれ、作品集も発行された。絵画では一九七九年大嶺政寛の顕彰展以来のことである。

二月にNHK日曜美術館で「安谷屋正義―おきなわ・白い抽象」が放映された。沖縄の作家についての全国向けテレビ番組による放映ははじめてのことである。

今年は三人もの偉大な指導者を失った。一月に陶芸の新垣栄三郎先生、七月に玉那覇正吉先生と大嶺信一先生である。慎んでご冥福をお祈りしたい。

（いなみね・せいそ　琉大美工科教授）